

愛されキャラの理由

Photo : Hiroyuki Urano Text : Akio Sato (rsf)

長く愛されている商品にはワケがある。一番売れている商品にもワケがある。となると、20年以上販売されていて、ワークの1P、2P部門で最も売れている“ワークエモーション”シリーズには、一体全体どんなワケがあるのだろうか？ ホイール業界最大の謎を解くべく、ワーク開発部のドアをノックした。

(ワーク・ワークエモーション)

WORK / WORKEMOTION





ワークエモーション最新作その1、ZR10 2P（ズイアーアルデンツーパー）。GT300で使っている10スポークのホイールにインスピレーションを受けたデザインを採用。つまり、最新のレーシングテクノロジーをフィードバックした、リアルスポーツホイールなのだ。

WORK WORKEMOTION ZR10 2P

SIZE : 18×7.0J-12.5J Full Reverse / 19×7.5J-12.5J Full Reverse / 19×8.0J-12.5J Reverse / 20×8.0J-12.5J Reverse
H&PCD : 5H-100 / 114.3 COLOR : Glimit Black / Titanium Bronze / Black / Azure White PRICE : ¥68,200-¥103,400



ワークエモーション最新作その2、RS11（アルエイズレブ）。インタビュの中で梅内さんが話していた「クラシカルなデザインの現代風アレンジ」がこちら。センターパートにデカデカと広がるロゴに、往年のラリーカーを思い出すにはいられない。

WORK WORKEMOTION RS11

SIZE : 15×5.5J-10.0J / 16×6.0J-9.0J / 17×6.0J-10.5J H&PCD : 4H-100-5H-114.3
COLOR : White+Black・Red Sticker / Black+White・Red Sticker PRICE : ¥50,600-¥69,300



デビューから現在まで、ワークエモーションのすべてに関わってきた重要人物、それが開発部の梅内さんだ。「CR Kaiのあとは奇数本数のスポークにこだわって、XT7やXD9などを作った」、「アルミの素材の段階から、ワークの品質は違っている」など、面白いお話の数々を聞かせていただいた。感謝。

ターゲットして2P、3Pへと発展したホイールは、ワークエモーションだけ。2P、3Pから1Pを作るパターンはありますが、逆はないんです。マルチピースが生まれた背景には、スタンスがブームになり始めたときに流行したリパレルホイールがあります。海外のお客様を中心に「インセットをmm単位で調節したい」とか「リム幅がほしい」などのリクエストが増えてきて、これらへの対応からCR2Pが生まれました。

そこから先はもう、なんでもアリ（笑）。うれしいことにスタンスからミニバンまで、いろんなカテゴリーのオーナーが履いてくれるようになりました。カラフルにもできるし、硬派にもできる。特殊PCD対応もしているの、欧州車やアメ車でも履いてもらってます。この対応力がエモーションの魅力として、支持につながっているのではないのでしょうか？

これからのホイールについては、レースからフィードバックされていくものと、クラシカルな物を現代風にアレンジするものの2つに分かれる気がします。今現在のレース用ホイールの主流は応力分散に優れ、メンテナンス性のいい10本前後のスポークタイプなので、このトレンドからZR10 2Pが誕生し、クラシカル向けにはRS11と、2つの新作を用意しました。今後もスポーツ系ホイールであることと軸に、ワークエモーションは進化していきますよ！

どうやらこれからもスタンスシーンとワークエモーションの蜜月は、続行していくものと断言だっ！

その製造版としてリリースされたのが「ワークエモーションCR」であり、さらにデザインを研ぎ澄ませ、前後でテーパーの深さを変えられる「フォーマット」をスタートさせたのが「ワークエモーションCR Kai」、フローフォーミング製法を採用し、同時にセンターキャップも装着した「ワークエモーションCR Kiwami」、そのマルチピースとなる「ワークエモーションCR2P&3P」と、進化の歴史はノンストップ。並行してXT7、XD9、11R、T7R、T5R、ZR10などなど、デザインのバリエーションもグイグイ広げ、スポーツ系ホイールのジャンルにおいて、圧倒的シェアを獲得するに至っている。

マイスターにシーカー、VSと、ワークのラインナップにはスタンス界のアイドルホイールたちがキラキラと並んでいる。そんな乃木坂46ばりのグループの中であって、1ピースと2ピース、2つの部門で売れ行きナンバーワンの座をガッチリ押さえている不動のセンターが、何を隠そう「ワークエモーション」だ。

そのルーツは98年にまでさかのぼる。当時ほぼ存在していなかった5×2のツインスポークを、大胆にもF3レース用のマグネシウム鍛造ホイールとして採用。その後市販品のアルミ鍛造ホイール「ワークエモーション」でのスーパー耐久を皮切りに、FIA公認の世界選手権などでもワールドチャンピオンに輝き、「勝てるホイール」としての評価を上げまくることに。

CRに関しては、リムオーバーの1Pからスタートしたので、これを2Pにリデザインするのが大変でした。スポークが長く見えるリムオーバーデザインは、2Pでは再現できないですから。ここはヘタに細工をせず、スポークがリムの中に突き抜けたようなイメージでデザインさせていたかったです。スポークの長さにこだわるなら1P、インセットにこだわるなら2Pと、あとはお客様の好みにお任せしています。

そもそも、スポーツ系の1Pからそれほどまでにユーザーをトリコにする、シリーズの魅力とは何なのか？ その答えを探すべく、レース用ホイールの時代から現在まで、エモーションに関わり続けているワーク開発部の梅内高宏さんを直撃した。「ワークエモーションに対して特に意識してやっているのは、コンケープとかテーパーなどと言われているスポークの角度ですね。一番深さのあるディープテーパーにすると、ぶっちゃけどんなホイールでもカッコよくなる（笑）。じゃあ、それをセミテーパーにしたときに、いかにカッコよさをキープできるか？ ここに神経を使っています。」

CRシリーズ進化の歴史

ワークエモーションのバリエーションの中で、最もインパクトがあるのがCRシリーズだ。このデザインからワークエモーションは始まり、多くの技術革新もCRが先陣を切って行ってきた。ここではその歴史をプレイバック！

WORK WORKEMOTION

ブランドのルーツモデルとなるホイール。国内F3では鍛造ホイールが全盛だった時代に、初の鍛造マグネシウム1Pとして登場。5×2スポークのデザインも、当時は珍しい存在だったという。



WORK WORKEMOTION CR Kai

レースシーンで成功を収め、ホイールを供給する車種が増加。そこで最適な設計を求めていく中でフェイス違いの製品が誕生。それがセミやディープといったテーパー違いのCR Kaiの製品化につながった。



WORK WORKEMOTION CR Kiwami

SIZE : 15×5.0J・8.0J / 16×5.5J-6.5J / 17×7.0J-9.0J / 18×7.5J-10.5J / 19×8.5J-10.5J
H&PCD : 4H-100 / 114.3
COLOR : ASH-Titanium / Kurenai (16-18inch ONLY) / Mat Black / White / Glim Silver
PRICE : ¥35,200-¥68,200

スタンス草創期を支えた立役者の1本。センターキャップの有無やフローフォーミングの採用といったトピックもあるが、何よりスポークエンドやサイドのデザインの違いを、Kaiと見比べていただきたい。



WORK WORKEMOTION CR 2P

SIZE : 16×5.5J-9.0J / 17×6.0J-10.5J / 18×7.0J-12.5J / 19×7.5J-12.5J / 20×8.0J-12.5J
H&PCD : 4H-100-5H-114.3
COLOR : Glim Silver / Mat Black / ASH-Titanium / White / Crystal Silver (16-17inch SR)
PRICE : ¥53,900-¥101,200

「インセットに自由度が欲しい!」「リム幅が欲しい!」といった海外市場からの大きな声に応えるカタチで、シリーズ初の2P仕様が発売。mm単位でのインセットにこだわるスタンス派にはうれしい作品に。



WORK WORKEMOTION CR 3P

SIZE : 18×7.0J-14.0J / 19×7.5J-15.0J / 20×7.5J-15.0J / 21×8.0J-11.5J
H&PCD : 5H-100 / 114.3
COLOR : Mat Carbon / Burning Silver / Black
PRICE : ¥86,900-¥141,350

3Pも加わり、ついにCRシリーズは1P、2P、3Pがフルでそろいぶみ! 3Pだからそのリムの組み合わせ、ピアスポルトの優雅さもあり、従来のCRとはまた違った高級感が楽しめる。